

今年度の出願資格認定申請・出願期間

学内推薦選抜試験(助産師コースのみ)

令和6年8月17日(土)

- 出願期間
令和6年7月23日(火)～7月30日(火)

秋期選抜試験

令和6年10月19日(土)

- 出願資格認定申請期間
令和6年8月30日(金)～9月6日(金)
- 出願期間
令和6年9月24日(火)～10月1日(火)

冬期選抜試験

令和7年1月25日(土)

- 出願資格認定申請期間
令和6年11月22日(金)～11月29日(金)
- 出願期間
令和7年1月6日(月)～1月14日(火)

※秋期選抜試験において定員を満した場合は、冬期選抜試験は実施しないので、出願前に電話等で確認してください。

交通案内

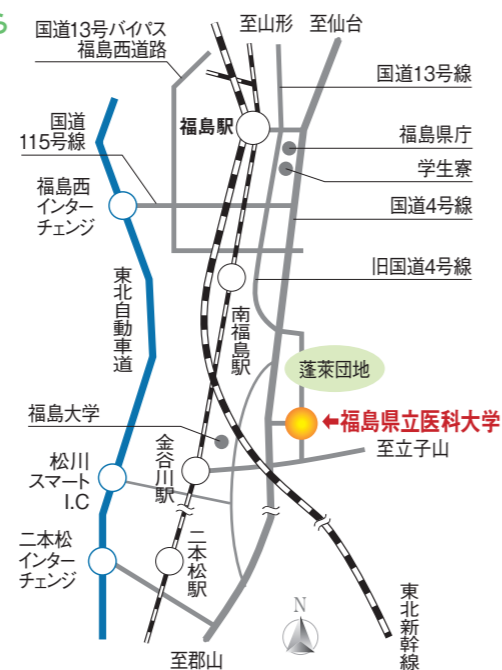
JR福島駅東口バスターミナルから 福島交通バス

「バイパス経由医大」行き乗車、
「医科大学前」下車徒歩1分
(所要時間約30分)

【平日のみ】

JR金谷川駅バス乗り場 (金谷川駅前停留所)から 福島交通バス

「医科大学前」停留所
下車徒歩1分
(所要時間約10分)



お問い合わせ



〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地 福島県立医科大学
事務局 教育研修支援課看護学部教務係(大学院看護学研究科担当)
Tel:024-547-1806(直通) Fax:024-547-1984
E-mail:kyoumu2@fmu.ac.jp
大学ホームページアドレス <https://www.fmu.ac.jp/>

福島県立医科大学大学院 看護学研究科

募集人員

博士前期課程(看護学専攻)

【募集人員】15名
■研究コース・CNSコース—10名
■助産師コース—5名

博士後期課程(看護学専攻)

【募集人員】2名



福島県立医科大学大学院看護学研究科の理念

看護の実践・研究・教育の場で活躍できる高度な専門知識、技術、実践能力を有する人材の育成を行い、看護学の創造と発展に貢献することを目的としています。

〈博士前期課程〉教育目標

- 1 高度な専門知識・技術と卓越した実践能力を持つ看護専門職者を育成する。
- 2 看護援助方法論の開発と研究を担う人材を育成する。
- 3 看護職のキャリア開発プログラムを構築できる人材を育成する。

研究コース・CNSコースにおいて、所定の期間在学し、修了要件となる単位を取得するとともに、学位論文審査および最終試験に合格し、下記の条件を満たす者に学位(修士(看護学))を授与します。

- 研究コース CNSコース
- 1 専門分野における専門的知識、技術を修得している
 - 2 看護学の学問の発展に寄与する実践・研究・教育に取り組むための基礎的能力を修得している
 - 3 高い倫理観を有した専門職者として専門分野の課題を探究できる能力を有している
 - 4 看護実践・研究・教育の場において地域に貢献できる能力を修得している

助産師コースにおいて、所定の期間在学し、修了要件となる単位を取得するとともに、学位論文審査および最終試験に合格し、下記の条件を満たす者に学位(修士(助産学))を授与します。

- 助産師コース
- 1 高い倫理観を有した専門職者として助産学分野の課題を探究できる能力を有している
 - 2 科学的根拠に基づいて助産ケアを提供できる専門知識、技術を修得している
 - 3 女性の健康の保持増進のために包括的な支援ができる能力を修得している
 - 4 災害時に関係職種と連携・協働して母子保健活動を実践できる能力を修得している

博士前期課程では、専門分野の高度な実践者、看護学研究者、看護学教育者を育成します。

- 研究コース CNSコース 助産師コース
- 1 専門性の高い看護職の基盤となる理論・知識が修得できる
 - 2 専門領域における高度な知識と実践能力が修得できる
 - 3 専門領域と関連する内容を学び、社会の要請に応え学問的成果をあげる能力を修得できる

本大学院看護学研究科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、専門性の高い看護学および助産学の修得を志向し、熱意を持って主体的に学んでいこうとする人を求めています。

【求める学生像】

- 研究コース CNSコース
- 1 看護学に関する専門的知識と技術を修得し、その発展に寄与する人
 - 2 専門看護師として高度な知識と卓越した実践能力を修得しようとする人
 - 3 保健・医療・福祉領域で多様な人と協働して地域貢献に尽力しようとする人

- 助産師コース
- 1 看護専門職としての豊かな人間性と高い倫理観を有し、看護学に関する専門的知識を修得している人
 - 2 助産学に関する高度な知識と技術を修得し、助産学の発展に寄与する人
 - 3 保健・医療・福祉領域において多様な人と協働し、地域貢献に尽力しようとする人
 - 4 福島県の女性の健康と母子保健の向上に貢献する意志を持つ人

研究科長からのメッセージ

本学大学院看護学研究科は、2022年4月に、前期2年、後期3年からなる博士課程として再始動いたしました。高度な看護実践能力を有する人材の輩出のみならず、看護実践の質の向上を図る研究能力を有する看護教育・研究者と、研究指導力を発揮して看護実践の革新を牽引できる看護実践指導者の育成を図り、人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献したいと考えています。

〈博士後期課程〉教育目標

- 1 看護系大学等の教育・研究機関において、複雑多様な人々のニーズに応えるケアやケアシステム開発の方法論を考究し、その体系化と発展に寄与する研究を自立して行い、その研究成果を看護実践に還元できる研究者で、その研究成果や研究指導力を以って質の高い看護学教育を展開できる看護教育・研究者を育成する。
- 2 病院や施設等の看護実践の場で、研究活動を自立して行うとともに、組織における研究活動や看護系大学等教育・研究機関との共同研究を推進し、その成果を看護実践に還元することを牽引できる指導者(看護実践指導者)を育成する。

【学位授与の方針】
ディプロマポリシー

- 1 人々のニーズに応えるケアおよびケアシステム開発を志向した新規性の高い独創的な看護研究の基盤となる知識や方法論を修得している。
- 2 実践開発看護学の体系化と発展に寄与する看護研究を自立して計画、遂行し、看護実践に還元できる研究力と研究指導力を修得している。
- 3 高度な看護実践力と研究力・研究指導力を基盤に、看護教育・研究者、あるいは看護実践指導者として、研究活動の組織的な取り組みを推進し、看護実践に還元、その革新を指導・牽引できる能力を修得している。

【教育課程編成実施の方針】
カリキュラムポリシー

- 1 人々のニーズに応えるケアおよびケアシステム開発の看護実践上の意義、その方法論について学修する。
- 2 看護実践上の課題を明確にし、課題解決のためのケアおよびケアシステム開発につながる研究課題および方法論を探究する。
- 3 看護現象と看護理論を吟味し、科学的な知見を理論へと発展させ、看護実践に応用できる方法を学修する。
- 4 看護実践上の課題の明確化、研究課題および研究方法論の構築を多角的な視点から深化させる。
- 5 人々のニーズに応える新規性のある独創的なケアおよびケアシステムを考究し、看護実践の場に適用させ、その成果の検証を通して、地域の保健医療福祉の課題解決ならびに人々のQOLの向上に寄与できる研究を学位論文として産出する。

【入学を受け入れの方針】
アドミッションポリシー

- 1 社会のニーズに呼応したケアおよびケアシステム開発に関心を持ち、博士後期課程における学修の基盤となる看護学の専門知識を有する人
- 2 基礎的な研究能力を有し、自ら課題解決に取り組む意欲を有する人
- 3 国内外の文献を読み解く語学力と読解力を有し、グローバルな視点から課題を分析する能力を有する人
- 4 看護教育・研究者、看護実践指導者としてコミュニケーション能力、論理的思考力を有する人
- 5 博士後期課程修了後、看護教育・研究者、看護実践指導者として保健医療福祉の革新を牽引する意思のある人

博士前期課程・博士後期課程 共通

働きながら、育児・介護をしながら就学する方の支援制度

長期履修制度

標準修業年限を超えて一定の期間で計画的に教育課程を履修できる「長期履修制度」を設けています。この制度は、2年間の課程(博士前期課程)を3年で、3年間の課程(博士後期課程)を4~5年で履修することが出来る制度です。授業料は、2年分又は3年分を予定在学期間で分割し納めることとなります。
※CNSコース・助産師コースは対象外です。

教育方法の特例

科目開講については、特例措置の時間帯(18時~21時)を設け、就学時間外でも履修が可能なように配慮します。研究指導は、主・副指導教員と相談しながら、平日の夜間や土曜日等の特定時間の利用や、遠隔講義システムの活用などを含め、計画的に就学できるよう支援します。

研究生・科目等履修生について

本学では、年2回(4月入学・10月入学)研究生及び科目等履修生の募集を行っています。

博士前期課程

博士前期課程の概要

博士前期課程では、看護の質の向上を目的とし、高度な専門知識・技術に基づいた質の高い看護の実践、援助方法や臨床看護方法論の開発、さらに看護職が専門職としてのキャリアを伸ばしていくことができるような看護教育方法の開発を通して、看護学の構築に貢献することを目指します。

研究コースのほか、がん看護、精神看護、小児看護の3つの専門看護師(CNS)コース(38単位)を開講しており、令和5年度よりあらたに基礎看護学、助産師コースを新設しています。

看護実践力、研究力を高め、地域・社会で更なる活躍を目指す方、看護学の創造と発展をともに考える仲間となる皆様をお待ちしています。

開講科目

【共通必修科目】		
看護理論	看護研究	
看護倫理	看護研究方法論	
【看護専門科目】		
基礎看護学	がん看護学	成人看護学
老年看護学	精神看護学	母性看護学・助産学
小児看護学	地域看護学	各領域の講義・演習・実習
【共通選択専門科目】		
●フィジカルアセスメント	●コンサルテーションの理論と実際	●看護と法
●病態生理学	●リハビリテーション看護論	●看護政策論
●臨床薬理学	●看護マネジメント論	●家族面接論
●健康情報学	●ストレスと心身症	●現代家族論
●看護教育論		
【研究指導科目】		
看護特別研究	看護課題研究	

※開講科目は変更になる場合があります。



講義風景



大学院専用PC室



論文発表会

博士前期課程の専門領域

基礎看護学

研究コース

看護の対象となる人間の生命活動、看護実践とその教育等、あらゆる看護学領域に共通する一般性・普遍性を目的や対象の特徴に即した研究方法を修得しつつ追究する。
令和5年4月に開設しました。

がん看護学

研究コース・CNSコース

がんと診断された時から終末期まで、さまざまな場所で療養しているがん体験者とその家族が抱える健康問題を解決するための効果的な看護援助方法論を開発する。

【近年の学位論文】

- 就労がん患者とその家族に対して看護師が行う日常生活に関する情報提供状況の実態
- 治療期がん患者に対応する看護師のコミュニケーションスキルとがん患者の治療選択における意思決定支援の関連

精神看護学

研究コース・CNSコース

精神の健康問題を持つ人が、自立したその人らしい生活を確立していくために必要な看護援助方法を開発する。

【近年の学位論文】

- 精神科急性期治療棟における統合失調症患者のリハビリ支援 -コンコダンス・スキルを用いた看護面接を通して-
- 男性発達障害者の家族形成で直面する困難とそれに対する向き合い方 -当事者の語りからの分析-

母性看護学・助産学

研究コース・助産師コース

マタニティサイクルにある女性とその家族、およびライフサイクル全般に関わる女性の健康を支援するための看護援助方法を開発する。助産師コースでは助産師国家試験受験資格を取得できる。

【近年の学位論文】

- 新卒助産師が先輩助産師との関わりの中で専門職としての意欲に影響を受けた体験
- 病院・診療所の熟練助産師が分娩経過で「待つ」ことの意味

成人看護学

研究コース

疾患や外傷などにより生体侵襲を受けた人やその家族の発達課題・生活過程を踏まえ、さまざまな健康レベルや病期に応じた看護援助方法を開発する。

【近年の学位論文】

- 新型コロナウイルス感染症重症患者への看護実践におけるICU看護師の体験
- 膵切除術後に膵液瘻を合併した患者の体験とその意味

老年看護学

研究コース

老年期にある人が、治療および療養の場でその人らしく生活することを支援する看護援助方法を開発する。

【近年の学位論文】

- 中小規模病院看護職の認知症高齢者に対する看護実践とその関連要因
- 高齢手術患者の術中体温変動と身体組成の関連性に関する前向き観察研究

小児看護学

研究コース・CNSコース

育児期にある家族の健康生活を支援するための援助方法および健康問題を持つ子どもとその家族のQOLの向上に必要な看護援助方法を開発する。

【近年の学位論文】

- 医療的ケアに関わる保育所看護職の役割
- NICUにおける親子の関係形成を促すケアに対する母親の受けとめとその影響要因 -極低出生体重児の母親に焦点を当て-

地域看護学

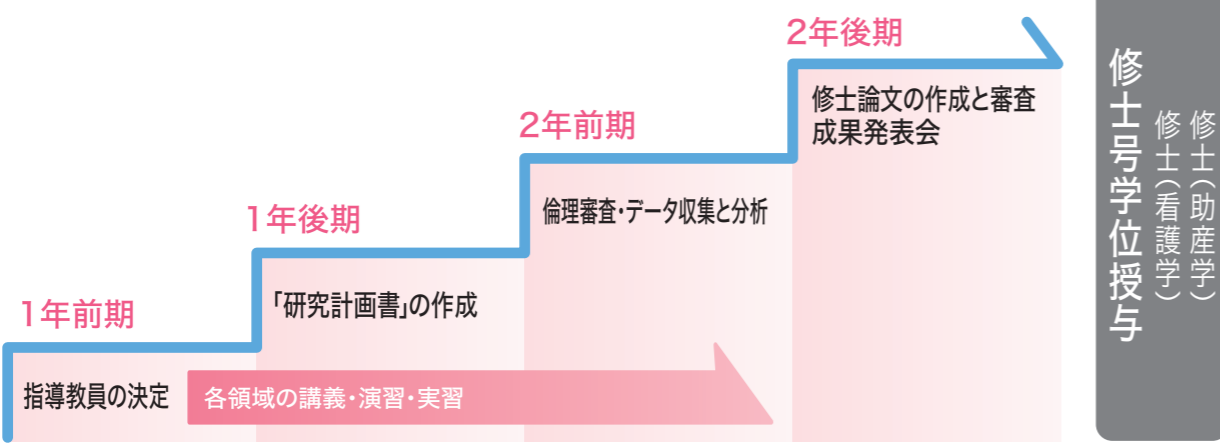
研究コース

様々な健康水準の個人や集団を対象として、行政・企業・訪問看護等における健康課題に応じた看護ケアシステムおよび看護援助方法を開発する。

【近年の学位論文】

- 県型保健所に勤務する新任期保健師の職業的アイデンティティを感じた経験
- 新任期保健師が自己の成長を感じることができた経験

博士前期課程での研究活動の流れ



博士後期課程

博士後期課程の概要

博士後期課程では、複雑化・多様化する健康問題の解決に資する独創的で質の高い看護実践を開発するとともに、住み慣れた地域で生活したいと願う住民や保健医療福祉資源の偏在を抱える地域の健康問題解決をめざし、多職種連携も含む継続した看護実践のシステム形成を図る能力の修得を目指します。

看護実践の場での疑問や検討課題を自ら説明・解決していく力を修得するために、本学研究科でともに学び、ともに未来の看護を創造していきましょう。

実践開発看護学

「実践開発看護学」とは、人々のニーズに応える新規性の高い独創的なケアと、それらを適時適切に人々に届けるケアシステムを創造し、その有効性を検証し、応用・発展させる方法論について教育・研究することを目的とする学問です。



開講科目

【専門科目 (8単位)】 【選択科目 (2単位以上)】

ケア開発看護学特講 (2単位)

慢性化・複合化する健康障害をもちながら生活する療養者とその家族のケアニーズに応える看護実践の開発と検証方法を考究し、発達段階、健康段階および療養の場に応じたエビデンスのある革新的なケアを探究する。

ケアシステム開発看護学特講 (2単位)

看護の対象となる人々が、健康問題をもちながら地域で生活していくための包括的かつ継続的なケアシステムのあり方について考究し、さまざまな健康問題、地域特性を活かした看護サービスの提供について探究する。

看護研究特講 (2単位)

看護学における看護現象の明確化、看護理論の開発、看護実践の成果の検証のための研究を自立して遂行する能力を養う。また、看護研究論文の分析を通じて、各学生が自身の研究・分析方法の検討等、研究計画書立案から論文作成まで必要な能力を養う。

実践開発看護学演習 (2単位)

実践開発に関連する文献検討とフィールドワークを通して、看護実践の対象者とその家族や環境、ケアに関わる専門職と関わりながら現状を把握し、看護実践の場における課題を抽出し、課題整理のための討議を教員・学生間で行うことにより、研究課題を洗練する。

看護人材育成論特講 (2単位)

看護実践を担う人材の教育に必要な学習理論を学び、看護専門職の生涯学習を支える看護基礎教育、継続教育およびその環境や社会との関連について学修し、人材育成能力を養う。

看護心理学特講 (2単位)

様々な心理学的理論や方法論を踏まえた看護実践について探究し、人間の心理状態、行動を理解するための基本概念を踏まえた高度な臨床判断、看護実践の開発を行う能力を身に付ける。

看護病態学特講 (2単位)

看護実践に必要な病態学の諸理論、国内外の最新の知見について学び、人間の身体に生起する病変の基本を知り、病態学的根拠を考慮した高度な臨床判断、看護実践の開発を行う能力を身に付ける。

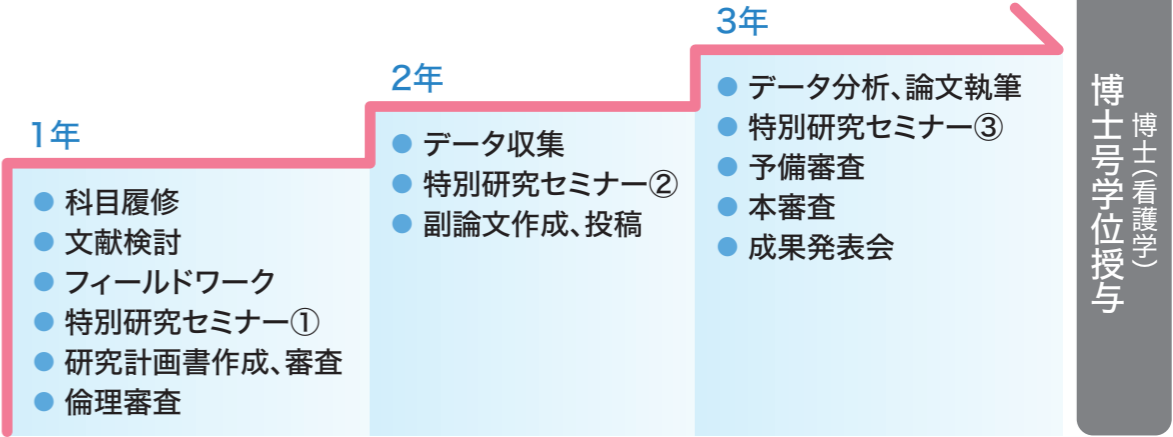
【特別研究科目 (6単位)】

実践開発看護学特別研究 (6単位)

「実践開発看護学」に関する研究を計画・実施し学位論文にまとめる。これに必要な研究課題の焦点化、国内外の文献検討、研究デザイン・研究方法の検討、研究フィールドの確保、データ収集・分析等、研究者として自立して研究できる能力を修得する。

博士後期課程での研究活動の流れ

実践開発看護学特別研究 (1~3年、博士論文科目)



研究指導教員／主な研究指導内容

黒田 るみ

看護実践を通して、看護職者と看護の対象者が相互に影響を及ぼし合いながら、それぞれ変化していく過程の普遍的な構造を追究することにより、あらゆる看護に共通するコアとなる看護実践能力を探究する。

坂本 祐子

高齢者の周手術期におけるせん妄・転倒等の医原性症候群は、生活機能を低下させるだけでなく、在宅復帰を困難にする問題である。入院時から予防ケアを提供するためのアセスメント、介入方法を追求する。

佐藤 菜保子

診断期から終末期の各ステージにあるがん患者と家族の体験について理解を深め、がんとの共生を支える包括的支援システム構築や、がん患者・家族のQOLを高める看護実践について探究する。

関亦 明子

疾病により生じる療養者の身体的困難の解決方法や治療による有害事象を非侵襲的に予防する看護実践を看護生命科学的手法を用いて開発する。

高橋 香子

公衆衛生看護の担い手である保健師の看護実践の質の向上および地域の健康課題解決のための地域ケアシステム構築に関する研究指導を行う。地域の健康問題を多角的に分析し、住民や多職種協働のもと効果的効率的に解決する看護実践の開発、検証、応用ができる能力を養う。

和田 久美子

子どもとその家族への看護は、発達段階の特徴に合わせて、子どもとその家族の持てる力を発揮できるように支えていく必要がある。そのためのアセスメントおよび看護実践について探究する。

片桐 和子

がん看護学領域において化学療法や手術などの大きな侵襲を受ける対象者を多方面から理解し、その人らしく主体的な生活ができるよう支援するための看護実践について探究する。

※教員の連絡先は学生募集要項を参照ください。